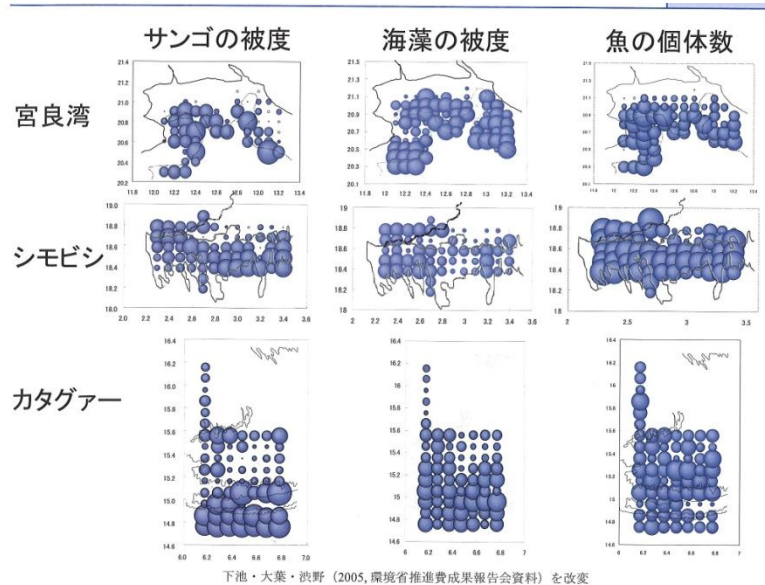


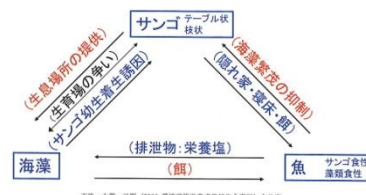
多様度調査について

サンゴ礁生物群集を把握するため、サンゴ、海藻、魚類の分布構造を分類するもの。現在、石西礁湖全域を調査中。ある生物群集が分布する代表的な地形に当てはめて、以下のような類別化が可能か検討しているところ。



下池・大葉・浪野 (2005, 環境省推進費成果報告会資料) を改変
 図5. 宮良湾、シモビシ、カタグアーのサンゴ、海藻、魚の分布のしかた

私たちの調査で、宮良湾、シモビシ、カタグアー全体で、サンゴ297種、海藻195種、魚299種が生息していることがわかりました。図5をみてわかるようにサンゴ、海藻、魚の分布の仕方は同じではありません。多くのサンゴが波当たりのいい礁斜面から礁縁部を中心にして分布しているのに対し、海藻、魚は礁縁部から礁池全体に広く分布しています。また、魚については、外洋に面した宮良湾、カタグアーに比べて石西礁湖の中央部のシモビシにスズメダイ類を中心に数多くの魚が生息しています。このような分布の偏りのために、きれいなサンゴが



下池・大葉・浪野 (2005, 環境省推進費成果報告会資料) を改変
 図6. サンゴ・海藻・魚の相互関係

【類型化例】

- 1 ; 礁嶺内側サンゴ岩盤・枝状サンゴ域
- 2 ; サンゴ岩盤・複雑な構造を持つ生きたサンゴ域
- 3 ; 浅めのサンゴ岩盤・枝状サンゴ域
- 4 ; やや深めの砂礫底にある枝状サンゴパッチ
- 5 ; やや深めの礁斜面
- 6 ; 小型糸状藻類が繁茂する礁縁部
- 7 ; やや深めのサンゴ岩盤、テーブル状・枝状サンゴ域
- 8 ; 海藻が繁茂する岩盤・大サンゴ礫を含む砂地
- 9 ; 小型枝サンゴ・死枝サンゴ礫
- 10 ; 干出する波当たりの強い礁原部、サンゴ礫を含む砂泥域
- 11 ; 小さめのサンゴ礫を含む砂泥域
- 12 ; 干潟、砂礫域

